

INFORMATION

■ 第35回制作展を開催

学生生活の中で磨いた感性と表現力を発表する年に1度の学校を挙げて行う展覧会です。4年間または2年間の集大成として、造形作品などを発表します。今年度から大学院芸術研究科2回生の作品も展示されます。また、大学全体を美術館と見立てて作品を展示する学内進級制作展が、学内で学生による企画運営によって同時開催されます。次代への造形表現への挑戦が展開される“嵯峨芸”の制作展にぜひ足をお運びください。



2007.2/7(水)～11(日)
10:00～17:00

「卒業・修了制作展」－京都市美術館
「進級制作展」－本学

※会期中両会場間で
無料シャトルバスを運行します。
詳細は教務課まで。
TEL 075-864-7867
kyomu@kyoto-saga.ac.jp

■ 第2回車座シンポ

「美術における写真表現の現在－松江泰治と木村友紀」を開催

「車座シンポ」とは、一方的な講演会ではなく、学内外で組織される研究会と招聘講師との双向的に構築される公開研究プログラムです。今年度は、美術批評家、清水穰氏をゲストナビゲーターとして迎え、モダニズム以降の写真表現をテーマに今回の招聘写真家である松江泰治氏と木村友紀氏の表現性に迫ります。



2007

2/10(土) 「写真とデジタルな色彩－松江泰治」
2/14(水) 「写真とレディメイド－木村友紀」

※いずれも15時～17時30分、於：本学・有響館G401教室、入場無料

■附属博物館・ギャラリースケジュール

2007

2/7(水)～11(日) 制作展
2/13(火)～18(日) 京都学生アートオーディション
2/21(水)～28(水) 研究生展
3/8(木)～11(日) 生涯学習講座受講生作品展
※月曜日休館

■教員展覧会情報

2007

1/30(火)～2/4(日) 思考する視線 2007 (京都嵯峨芸術大学 芸術学部造形学科 油画研究室展)
/同時代ギャラリー／イチハラヒロコ、入佐美南子、宇野和幸、押江千衣子、金村仁、小畠大輔、堀井聰、中野庸二、山本直木、吉村昌子

■京都嵯峨芸術大学公式サイトのご案内

京都嵯峨芸術大学公式サイトでも嵯峨芸 また、こちらのQRコードを使って携帯情報がご覧いただけます。
<PC・携帯>
<http://www.kyoto-saga.ac.jp>



京都嵯峨芸術大学広報
第19号
2007年2月1日発行
編集・京都嵯峨芸術大学 企画広報室
発行・学校法人大覚寺学園 京都嵯峨芸術大学
〒616-8362 京都市右京区嵯峨五島町1番地
TEL 075-864-7859
FAX 075-882-7770
info@kyoto-saga.ac.jp

京都嵯峨芸術大学 広報

KYOTO SAGA

UNIVERSITY OF ARTS

PUBLIC RELATIONS

VOL.19

FEBRUARY 2007

Contribution

メディアデザイン学科開設記念シンポジウム

「メディアとしてのロボット」

要約「Interdependence Agent 新たなメディアとしてのロボット」石黒周



News

理事会報告

評議員の選任

大学報告

学長選挙結果報告

第三者機関による認証評価実地調査

名誉教授の称号授与

専任教員任用

事務局人事異動

2006年9月卒業



Information

第35回制作展を開催

第2回車座シンポ

「美術における写真表現の現在－松江泰治と木村友紀」を開催

連続講座 京の美意識

入試日程

附属博物館・ギャラリースケジュール

教員展覧会情報



メディアデザイン学科開設記念シンポジウム 「メディアとしてのロボット」

— 石黒 周 —

2007年4月よりメディアデザイン学科が開設されることに伴い、2006年11月18日に、開設記念シンポジウム第2弾「メディアとしてのロボット」を開催いたしました。ロボット科学教育界の牽引者である石黒周氏をお招きし、基調講演を行っていただきましたので、講演の要約を掲載いたします。

Interdependence Agent 新たなメディアとしてのロボット

現在、日本はロボット先進国と言われています。いま開発されているロボットは、産業用、監視系、癒やし系、災害救助用、玩具系など多分野で進化を続けています。では、次世代ロボットはどういう方向に向かうのか。経済産業省のロボット政策研究会では次世代ロボットを、「人に代わって、あるいは人と協調しながら、人によりよい生活を提供するシステム」と定義しています。

私は縁あって新規事業創造のお手伝いを多くのところでさせていただいている。その立場から言うと、経済産業省の定義に加えて、産業的なアプローチが可能であり、かつ「Interdependence Agent」も次世代ロボットの将来的な姿ではないかと考えています。

人ととのコミュニケーションは、意志を伝える双方の言葉や動作だけでなく、伝える目的以外の表情、感情などを読み取って良好かつ円満な関係が保たれています。サービス業部門では最近、インターフェースの重要性が言われています。次世代ロボットに期待されるのは、人間とのパートナー関係になり得るロボットの「Interdependence」（相互依存）を「Agent」（結び）つけるインターフェースの構築部分にあるのではないでしょうか。

最近では、電化製品等にICチップが埋め込まれたユビキタス技術が飛躍的に進化し続けています。ここでもロボットが、周囲の環境、気配を感じ、コンピューター、ユビキタスと人間との仲介役となり、私たちの快適生活を自動的にコントロールしてくれるとも、次世代ロボットに期待されています。

ここには、インターフェースデザインはもちろんのこと、プロダクトデザイン、コミュニケーションデザイン、メディアデザイン、空間デザインなど、デザイナーが活躍できる領域は無限大に広がっています。

ロボット制作の世界では、2050年までに、人間のサッカー世界チャンピオンチームに勝てる、完全自律型ヒューマノイド・ロボットを完成させることを目標に、「Robo Cup」プロジェクトが進行しています。ここには世界中から、技術者、アーティスト、デザイナー、ユーザーなど、幅広い分野の人たちがITネットワークを通じて集まり、活発な情報交換をしています。ここで考えられている次世代ロボットは、サッカーを課題には掲げていますが、少子高齢化時代を見据えて、人間に代わって、あるいは人間と協調しながら、人間に何らかのベネフィットを提供できるもの、人間の豊

かな生活を維持するためのロボットをイメージしています。このプロジェクトはHP「<http://www.robocup.org>」でも公開していますので、ご興味のある方は、ぜひご覧ください。

JR大阪駅北側（北ヤード）開発が進んでいます。この地域開発は私も計画段階から関与し、開発のコンセプトを、「future life」とし、ロボットシティコアと、サイバーアートセンターが建設されることが決まりました。ここでは、人間と共生する、あるいはインターフェースを媒介する、まさにメディアとしてのロボット創造の、日本における一大拠点になることをを目指しています。さらにデザインを通じて、「future life」の指標となる表現を見せる場としての機能にも期待しています。

文明批評家であり「メディア論」を著したマーシャル・マクルーハンは、あらゆるメディアは送っている内容（コンテンツ）とは異なる次元で受け手の身体に作用し、人間の身体の「拡張」であると主張しています。次世代ロボットが、人間の拡張として、また新しいメディアとして存在する時代は、そんなに遠いことではありません。ロボットのメディア機能は、従来のメディアのように編集性を持ち、なおかつ身体性、従来のメディアの最適化を図る融合性も備えることが大きな特徴になります。

今までになかった新しいメディアを使って、世の中にどのようなメッセージを伝えていくのか。また、次世代ロボットのビジ

ネス化に向け、構想・事業コンセプトを立案し、共鳴したプレイヤー間の融合と共創により、顧客価値を創出する人材の育成。ここに京都嵯峨芸術大学が次年度から開設される「メディアデザイン学科」の活躍の場が、大きく開かれているのではないでしようか。

用語解説

※RoboCup

ロボット工学と人工知能の融合、発展のために自律移動ロボットによるサッカーの競技会。日本の研究者によって提唱され現在では、サッカーだけでなく、ロボカップサッカーで培われた技術を災害救助に利用しようというプロジェクト、ロボカップレスキュー、次世代の技術の担い手を育てるロボカップジュニアなどが組織されている。

※マーシャル・マクルーハン

カナダ出身の英学者、文明批評家。メディアに関する理論で知られる。

※ユビキタス

同時に、どこにでも、だれでも参加できることを示す。

※ロボットシティコア

大阪駅北ヤードで進められている、ロボットテクノロジーにおける世界水準の研究開発・情報発信拠点。

※サイバーアートセンター

大阪駅北ヤードで進められている、先端技術とアート&デザインの融合により未来を生み出す研究開発拠点。また、ミュージアム・見本市・エンターテイメントの複合した展示空間にもなる。



石黒 周氏 プロフィール

東京大学理学部化学科卒業。博士(学術)。コニカを経て、科学技術振興事業団ERATO北野共生システムプロジェクト技術参事。ロボカップフェデレーションチーフビジネスオフィサー。ヒューマノイドロボットベンチャー株式会社ZMP共同設立。研究開発型NPO振興機構専務理事。(株)ロボット科学教育アドバイザー。(株)MOTソリューション代表取締役。ロボットラボラトリーリーダー。大阪府次世代ロボット社会実証実験イニシアティブ代表。関西次世代ロボット推進会議プロジェクトオフィサー。LCA大学院大学教授。梅田「北ヤード」にロボットシティコアを構想中。

NEWS

理事会報告

評議員の選任

2006年9月28日の理事会において、以下の通り役員の選任が行われ、続く評議員会で確認されました。

評議員 大邊 徹

(任期 2006年9月29日～2007年5月31日)

大学報告

学長選挙結果報告

今年度3月末で任期切れとなる学長の後任を決める学長選挙が、去る11月15日に実施され、現職の三好郁朗氏（2期6年目）が再選され、3期目を迎えることとなりました。

大学報告

第三者機関による認証評価実地調査

法令により、7年に1度実施が義務付けられている第三者機関による短期大学部・専攻科の認証評価（実地調査）が、財団法人短期大学基準協会から派遣された5名の評価員により、2006年10月1日から3日に、本学並びに京都市内ホテルにおいて実施されました。同様に、大学・大学院についても財団法人日本高等教育評価機構から派遣された5名の評価員と3名の機構職員により、11月8日から10日の3日間本学並びに大覚寺、京都市内のホテルにおいて実施されました。これらの評価結果は、本年3月に公表されるとともに文部科学省に報告されます。

名誉教授の称号授与

昨年6月に逝去された故鯛天成雄先生に、名誉教授の称号が授与されました。（2006年11月7日付）

大学報告

2006年度9月卒業

2006年9月27日の教授会において、芸術学部3名、短期大学部7名の卒業を認定し、10月4日に卒業式を執り行いました。

事務局人事異動

事務局の異動並びに新規採用を実施いたしました。（2006年9月1日付）

総務課嘱託職員	西田淳子 (新規採用)
芸術文化研究所研究部門 (芸術文化研究所) 課長	炭山尚賢 (前博物館・ギャラリー課長)
企画広報課長・ 芸術文化研究所事業部門 (文化事業部) 課長兼務	三宅一穂 (前企画広報課長)
キャリア支援課	佐野恵子 (前博物館・ギャラリー課)

門川氏を迎えて FD研究会を実施

暮れも押し迫った12月13日に、FD研究会「初等教育での芸術教育、芸術大学の役割」を開催いたしました。



現在本学で行われている子供向け造形講座についての事例報告後、特別講師としてお招きした門川大作京都市教育長に、現在京都市で行われている教育改革や、教育再生会議の取組みなどについてお話をいただきました。本学教職員に加え、教職課程履修学生も参加し、今後の本学における地域連携、初等教育への関わりを考える貴重な機会となりました。



TOPICS

研究発表事業

2006年12月3日に、国際シンポジウム「第2回東アジアの古建造物彩色・壁画の保存と修復-韓国通度寺靈山殿壁画編-」を開催いたしました。これは本学日本画分野の古画研究工房、元興寺文化財研究所などが共同で行っている「東アジアにおける寺廟建造物壁画及び扉絵の復元模写と保存修復に関する研究」の一環です。今回新たに調査研究対象を韓国通度寺の靈山殿壁画に移し、保存修復・模写プロジェクトが立ち上がったことに連動して2004年に開催した同国際シンポジウム「台湾興済宮・王家宗祠編」に続き開催いたしました。当日は、台湾、韓国、日本からパネリストを招いてそれぞれの研究発表があり、約70名の聴衆も加え、古建造物壁画等に関するあり方などについて活発な意見交換が行われました。今後更なる研究が期待される分野でもあり、本学も積極的に取り組んでいきます。



専任教員任用

2005年度から特別任用教員として勤務いたしていました芸術学部大島成己講師を、10月1日付で任期付専任教員（講師）として採用いたしました。（任期 2006年10月1日～2009年9月30日）

TOPICS

附属機関の活動

後期企画展報告

本学は大本山大覺寺を母体としており、学園創設35年の機会に開学の精神を見直す意味も含め、附属博物館において「大覺寺展-障壁画模写を中心とした-」を2006年11月8日から12月20日の期間開催しました。嵯峨天皇と宗祖弘法大師の肖像画をはじめ障壁画(模写)などを中心に大覺寺が所蔵する寺宝を展示し、学生・一般の方など1,000名を越える来館者がありました。



- The new edge of art 展 -

また、附属ギャラリーにおいては10月から12月にかけて、上記企画とは対照的な先進的感覚の展覧会を断続的に開催しました。本学ゆかりの新進アーティストによる

『The new edge of art 展』、本学卒業後社会の第一線で活躍するイラストレーターの作品を展示了『The illustration OB/OG front展』、CG美少女作家による3DCGキャラクター作品展『VIRTUAL BEAUTY EXPO 2006 in kyoto』、『Close Up!』をテーマに『第4回マイカメラ・マイスタイル・マイフォト展』など、多彩なラインナップが芸術の嵯峨を彩りました。

あらしやまびこ

附属図書館では、月に一度近隣の小学生を招き、図書館の特性を活かしたイベントを行っています。特に10月は、卒業生でもあり絵本作家のさいとうしのぶさんをお招きし、講演会「あそんでうたってえほん！！－お勧め手作り絵本－」を開催し、保護者の方も交えての楽しい企画となりました。また、同時にさいとう氏の絵本原画展を開催し、在学生なども真剣に見入る光景が見られました。

教員の活躍

箱崎教授がバレエ団公演の美術を担当

2006年10月に京都府立府民ホールアルティで開催された、「桧垣バレエ団ヨーロッパ公演記念公演 TAIKO 絵姿女房より」の美術を箱崎睦昌教授（芸術学部造形学科日本画分野）が担当されました。

「観光デザイン学の創造」を出版

芸術学部観光デザイン学科設立から4年が経過し、2005年3月に初めて卒業生を送り出したことを機会に、「観光デザイン」学の現状と可能性を概観することを目的として、「観光デザイン学の創造」の編集が行われました。2006年11月に出版された同書籍は観光デザイン学科教員7名がそれぞれ分担し執筆されており、多角的な見地からの示唆に富む内容となっています。



観光デザイン学の創造
世界思想社刊行

「テキスト建築意匠」が発刊

観光デザイン学科の藤木庸介専任講師が執筆（共著、4章・12章を担当）された「テキスト建築意匠」が学芸出版社より発刊されました。



テキスト建築意匠
学芸出版社

学内イベント

各分野、研究室等の成果発表

2006年7月から11月へかけて、各分野・研究室での学生研究発表が以下のとおり学内、学外各所で行われました。大覺寺を斬新な芸術で彩る、あるいは他大学研究室、卒業生とのコラボレーションによる企画など、様式に囚われない芸術大学らしい企画が展開されました。

○ 2006年(7月～10月)研究発表一覧

7/7～11, 8/4～6	「メディカッP06」	メディアアート研究室	造形学科メディアアート分野学生展
7/18～23	「日本画制作展」	日本画研究室	造形学科日本画分野制作工房3、4回生展
7/25～8/6	「陶芸・染織展」	陶芸・染織研究室	短期大学部学生陶芸、染織展
9/27～10/1	「feelcode」	メディアアート研究室	ヘッドマウントディスプレイを使用した「透過型映像の研究発表展」 協力：京都大学学術情報メディアセンター 中村研究室、(株)島津製作所航空機器事業部、TRANSLABO
10/4～22	「SCOPIE」	メディアアート研究室	大学院造形複合分野学生3名の研究発表展
10/5～9	「大覺寺野外展」	彫刻研究室	彫刻分野学生による大覺寺での野外展
10/17～26	「Thinking Print vol.1 -層・イメージ・色彩-」	版画研究室	版画分野学生、卒業生による研究発表展。
10/25～11/6	「有響館展」	彫刻研究室	彫刻分野学生による有響館でのインスタレーション展

学生イベント

嵐芸祭（学園祭）、 ホームカミングデーを開催

2006年11月22・23日の2日間、嵐芸祭が開催されました。今年は「融合-You go-」というテーマの元、お笑いライブや、POLYSICSのライブ、個性的な模擬店など、多彩なイベントが展開されました。

また、11月23日には、卒業生を招いてのホームカミングデーとし、約70名の卒業生が「高石ともやトーク&フォーカク」等にご参加いただきました。

その他様々な学生イベント

学生が企画、運営する様々なイベントが行われました。和装業者のさがの館とタイアップした「和服のファッショショーン」や、学内でのハロウィンパーティー、シタール奏者を迎えての「インド音楽の夕べ」など、国際性豊かな内容で繰り広げられました。



学生の活躍

「TOKYO DESIGNERS WEEK」に参加

2006年10月31日から11月5日に明治神宮外苑で行われた「TOKYO DESIGNERS WEEK 2006」の「STUDENT EXHIBITION」に、本学からも短期大学部デザイン分野、専攻科、芸術学部観光デザイン学科の選抜された学生が11名参加しました。

学生の活躍

地域での活動

昨秋観光デザイン学科イベントデザインゼミの3回生が課題として取り組んだ商店街活性化イベントが、2件実施されました。一件は2006年9月12日から9月24日の期間、西陣千本通り商店街の、各店舗代表者の笑顔の写真を店頭に飾り、笑顔あふれる“笑店街”とする「笑Ciao！（ワラッチャオ）」というイベントです。もう一件は、仁和小学校の生徒と協力して作り上げた“新しい妖怪”を提案する、「仁和キッズと愉快な妖怪たち展」を10月28日から11月4日の期間、大將軍商店街にある八神神社境内で開催しました。どちらのイベントも、準備段階から各報道機関で取り上げられるなど、好評を博しました。

また、大学院に在学する河野準也さんがプロデュースした妖怪仮装行列イベント、「一条百鬼夜行」が10月14日に一条通大將軍商店街「妖怪ストリート」で開催されました。本学から多くの学生が参加し、大いに盛り上りました。

「ART UNIV 2006」 に出品

2006年11月7日から26日に京都にある芸術系10大学による合同作品展「ART UNIV. 2006 - 芸術系大学作品展 -」がキャンパスプラザ京都で開催され、本学からは大学院生5名の作品が出品されました。

なお、2007年2月18日に、関連企画として「京都学生アートオーディション」が本学と京都造形芸術大学で開催されます。

公募展での受賞

各公募展において、本学学生が入賞するなど、活躍しています。

■「岐阜フラッグアート展」：

岐阜フラッグアート展実行委員会主催、審査委員長日比野克彦氏

岐阜市賞 / 遠藤 友美恵さん（短期大学部美術分野2回生）「存在する」

■「第四回ふろしきデザインコンペ」：日本風呂敷協会主催

佳作 / 伊藤 現さん（芸術学部観光デザイン学科2回生）

■「2006夢の自転車アイデア募集」：ホビーサイクルプロジェクト委員会主催

近未来型自転車部門優秀賞（最優秀賞該当なし）

/ 岡田 考博さん（芸術学部観光デザイン学科2回生）「Leaf」

※同企画への多数の参加によって、
芸術学部観光デザイン学科が「特別団体賞」を受賞。



特別団体賞

■「アートジャム2006」：毎日放送主催

タカラトミー部門タカラトミー賞

/ 田口 由美子さん（芸術学部造形学科版画分野3回生）「She is so cool！」

京都学生祭典での活躍

2006年10月7、8日の2日間、京都にある大学全体のお祭り「京都学生祭典」が平安神宮などで開催されました。

本学からも、メインの企画である「京炎 そでふれ！」に3名の学生が踊り手として参加、また、短期大学部学生が縁日へ「陶器市」を出店しました。今回からの新しい企画として登場した学生みこしを、油画分野3回生の伊藤仁さんを中心としたチームが製作するなど、随所で存在感を示しました。

